

第2講 先史時代ギリシアの時代区分と全体的な俯瞰

小レポート課題：ギリシアの地理的特徴について論ぜよ。

7000/3600	新石器時代
3600/2500	前期青銅器時代
2500/1600	中期青銅器時代
1600/1100	後期青銅器時代
1100/ 750	暗黒時代
750/ 500	前古典期
500/ 334	古典期
334/ 146	ヘレニズム期

新石器時代 前 7000－3600 年

農業の開始、穀物の栽培と家畜の飼育、マグロの骨と黒曜石、土器の製造、村落の形成、ナラ林の開発と自然破壊

北部ギリシア：丘陵中心、村落の形成、階層差

南部ギリシア：洞窟

セスクロ：中期新石器（前 5800－5300）彩文土器（褐色）、幾何学模様

ディミニ：後期新石器（前 5300－4500）彩文土器、模様の複雑化

青銅器時代 前 3600－1050 年

宮殿体制、くちばし壺、牧畜の活発化、線文字B、文書行政、社会の組織化、オリーブやブドウの栽培、

南北の逆転

前期青銅器時代 前 3600－2500

くちばし壺、町の形成、2階建ての建物

くちばし壺、ソースボート（舟形ソース入れ）、フライパン型土器、石偶

前 2200 の破壊

中期青銅器時代 前 2500－1600

ミニュアス式土器、集落の減少と分散化、(ギリシア人の到来?)

クレタ文明の発展、宮殿の発展

後期青銅器時代 前 1600-1100

宮殿(ミケーネ、ティリンス、ピュロスなど)、王と官僚、文書行政、
宮殿様式の土器、キュリクス、あぶみ壺、キュクロペス式石積み、東
地中海交易圏(ギリシア→エジプト→シリア→小アジア→ギリシア)
(ドーリス人の侵入?)

前 1250 年頃 破壊

前 1200 年頃 破壊

移行期 前 1100-1050

サブ・ミケーネ式土器(地域によっては欠如)

初期鉄器時代(暗黒時代) 前 1050-750

村落、階級社会、火葬と土葬、鉄器、人口増加

プロト幾何学様式 前 1050-900

鉄器時代の到来

同心円、同心半円、波線、帯、直線、動物

前期幾何学様式 前 900-850

胴部に装飾紋帯、同心円、パネル、直線、斜線、口縁部~脚部の
色付け

中期幾何学様式 前 850-770

装飾紋帯の拡大(肩部~頸部)、下腹部~脚部に帯、メアンダー
(雷紋)

後期幾何学様式 前 770-725

空白への恐怖、下腹部~脚部に装飾紋帯の拡大、動物や人物(脛
脛や髭、武装した戦士、葬儀の情景)

人口の増加、ポリスやエトノスの形成